



大衆という気まぐれ

クロダインターナショナルコンサルティング

黒田 毅

政治は、大衆に背く。大衆は政治に背く。これは唯一対話における解決が存在するのである。

大衆は、自己の生活以外見えないのである。そのため大局を論じても理解できないのである。これにおいて国家は滅ぶのである。

国家が滅べば、自己の生活を失う。そのため対話は、その意味や必要性を理解させなくてはいけない。

しかし同時に社会的弱者への生活の供与を求められることを意味する。それは弱者は生存の必要性を全てとするため、これらの判断は否定できないのである。これは国家が永続することに対して全ての国民への基本的標準生活を供与の必要性を表すものである。

また無知は幸福であり、真実は冷酷である。大衆は無知なのである。しかし情報開示は選択と民主主義を与えるものである。

大衆がその責任を放棄するとき、国家は滅ぶ。

権利は必ず責任の対価なのである。これが国家を与えることができるのである。

現在のポピュリズムは、CIAにおけるマインドコントロールである。正しい為政は必ず真実を求めなくてはならない。

大衆の反乱は歴史において永遠に存在したのである。これは唯一失政の結果なのである。